

2004 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 12 日作成)

委員会名	基礎構造系振動小委員会	主 査 名：福和伸夫
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：篠崎祐三
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	耐震設計への動的相互作用導入のための方法の検討 入門書「やさしい・動的相互作用を考慮した設計法(仮題)」の執筆 「構造物と地盤の動的相互作用シンポジウム」の開催	
委員構成 (委員名(所属))	福和伸夫(名大)、林康裕(京大)、宮本裕司(鹿島)、新井洋(防災科技研)、嵐山正樹(久米)、飯場正紀(国総研)、鬼丸貞友(竹中)、北村春幸(理科大)、栗本修(大林)、田守伸一郎(信州大)、中井正一(千葉大)、永野正行(鹿島)、福武毅芳(清水)、船原英樹(大成)、森伸一郎(愛媛大)	
設置 WG (WG 名:目的)	動的相互作用刊行物 WG: 入門書「やさしい・動的相互作用を考慮した設計法(課題)」の内容審議・執筆を行う	
2004 年度予算	350,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	4/16・15 人、6/18・18 人、9/8・20 人、11/26・15 人、3/16・予定 (小委員会と WG を同時開催) 幹事会 11/9・9 人、2/7・9 人、3/9(予定)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>本年は出版物の執筆と、第 3 2 回地盤シンポジウムの地盤震動小委員会との協働開催の 2 つの活動を主に実施した。</p> <p>出版物に関しては、小委員会設立後 20 年の節目を終えたこともあり、2001 年度より、動的相互作用研究の推進に加え、動的相互作用を考慮した耐震設計の普及をめざして、「動的相互作用を考慮した耐震設計法」の刊行を目指して検討を進めている。本年度は、出版物の執筆をすると共に小委員会内で査読を終了した。新年度に振動運営委員会及び構造委員会での査読を終えて、出版・講習会の実施を予定している。出版物の内容は、東海地震等巨大災害への対応特別調査委員会・建築構造物小委員会・非線形相互作用 WG にも活かされている。</p> <p>また、1 月には、地盤震動小委員会と共催で「第 3 2 回地盤震動シンポジウム」を開催し、表層地盤での地震動増幅についての議論を行った。両小委員会共催する形でのシンポジウム開催は初めての試みであり、相互の議論が進んだことは価値があると思われる。また、従来の参加者と比べ、設計に携わる技術者の割合が増加などの効果があったと思われる。</p> <p>委員会 HP アドレス:</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 出版物刊行については、年度当初は、本年度中に、振動運営委員会と構造委員会の査読を終える予定であったが、執筆の遅滞と、小委員会内での査読に時間を要したため、新年度に査読を依頼することになった。地盤震動シンポジウムの共催や、東海地震など巨大災害への対応特別調査委員会などへの成果の移転は、当初予定してなかったものであり、当初以上の達成度であったと判断される。
その他評価すべき事項	地盤震動シンポジウムの共催、東海地震など巨大災害への対応特別調査委員会などへの成果の移転